



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：ガス版 OPEC に関する報道

(10月21-23日付現地各紙)

1. 21日付「テヘラン・タイムズ」紙

ノーザリ石油大臣（イラン）、アル・アティヤ石油大臣（カタル）、ガスプロム社ミラー社長（ロシア）は3カ国間の協力について議論を行う。世界の天然ガス埋蔵量のうち、ロシアが26%、イランが16%、カタルが14%を所有する。

2. 22日付「イラン・デイリー」紙

ガスプロムのミラー社長は、「我々は技術委員会を設立することに合意したとして「ガストロイカ」が設立されたといえるだろうと発言した。ノーザリ石油大臣は、「本日大きな決断が下された。イラン、カタル、ロシアは世界の3大ガス所有国であり、ガス輸出国からなる組織の設立を真剣に希求することに合意した」と発言した。創設される組織については、次回の外相級の会合で議論される予定。

3. 23日付「イラン・ニュース」紙

ガス版 OPEC は、ガスエネルギーの大半をロシアからの供給に頼っている EU 諸国にとって経済的に深刻な脅威であり、EU 諸国では、ガス田及び代替エネルギーの開発が進むであろう。EU 諸国は、ロシアによるガス供給の支配を最も懸念しており、制裁下（対イラン制裁）にも関わらず、アメリカの意向に反する形で、近い将来にはナブッコパイプライン計画を推進するであろう。